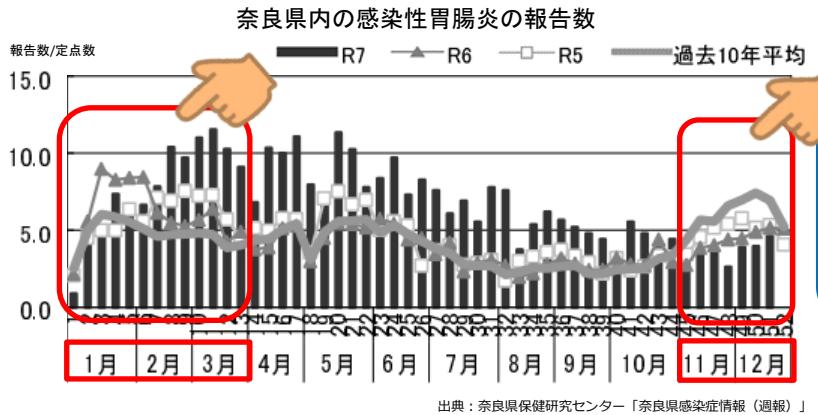


家庭でできる 感染性胃腸炎対策

奈良県内の感染性胃腸炎の流行状況



家庭用

感染性胃腸炎ってどんな病気？

Q. どんな病気？

ノロウイルスなどが原因の胃腸炎です。
感染力が強く、少量のウィルスで感染が成立します。

Q. どんな症状？

吐き気、おう吐、下痢、腹痛、発熱などが1～3日間ほど続きます。
(潜伏期間: 1～2日)

Q. どうやって感染？

・ウイルスが含まれた水や、食物、手を介して感染します(接触感染)。
・処理をしていない、おう吐物等が乾燥して空気中にまいあがり、感染することがあります。

登園・登校の基準について

登園・登校の判断

流行期において、お子さまがおう吐や下痢をした場合、すみやかに受診し登園・登校はひかえましょう。

登園・登校の目安

感染拡大防止のため、**症状軽快後48時間経過後の登園・登校**が推奨されます。

ただし、登園・登校時期については主治医や園・学校とご相談ください。
※ウイルスは便中に1ヶ月程度排泄されることがあるため、
登園・登校を再開した後も排便後やおむつ交換後の手洗いを心がけましょう



家庭内感染を防ぐための処理セット（例）

自分の身を守る

- 使い捨て ゴム手袋 (1人2組)
 - 使い捨て マスク (1人1枚)
 - 使い捨て エプロン
(介護・汚物専用エプロンを決めておくとよいです)
- 100円ショップやドラッグストアなどでも購入できます

感染拡大を防ぐ

- 次亜塩素酸ナトリウム
(家庭用の塩素系漂白剤：
キッチンハイター、花王ハイター等)
- ペットボトル(2L × 2本)
※スプレー・ボトルは使用しない
- 新聞紙(朝刊5～6日分)またはキッチンペーパー
- ゴミ箱(段ボールなど捨てられるもの)
- ビニール袋3枚
45L 2枚、6～7L(L) 1枚

★感染性胃腸炎の消毒にはアルコールは効きません

「酸性アルコール消毒液」という胃腸炎にも有効なアルコールが近年市販されています。

次亜塩素酸ナトリウムの薄め方(希釀の方法)

	汚染時 掃除用	環境整備用
消毒液を使用する場所・もの	おう吐物や便が付いた床、トイレ、衣類	便座、ドアノブ、手すり、床などふれる場所
できあがる消毒液の濃度	0.1 % (1,000ppm)	0.02 % (200 ppm)
作り方 ※ 5%次亜塩素酸ナトリウムを使用	500mLのペットボトル(水)に原液※キャップ2杯(10mL) キャップ1杯=約5mL	2Lのペットボトル(水)に原液※キャップ2杯(10mL) キャップ1杯=約5mL

参照：奈良県疾病対策課「感染性胃腸炎 ノロウイルス・ロタウイルス等」を一部編集

次亜塩素酸ナトリウム 使用時のポイント

◆必ず換気をする

◆作り置きの場合は、遮光・暗所に保管する
効果が弱まるため作り置きはせず、使い切りましょう



①自分の身を守る

おう吐物処理を始める前に、手袋(2重)、マスク、エプロンを付けましょう。



②おう吐物の上に新聞紙(キッチンペーパー)等を置き、拭き取る

- ・拭き取り後は、すぐに、ビニール袋(6~7L)に入れ、密閉します。
※ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の0.1%次亜塩素酸ナトリウムを入れることが望ましいです。
- ・ビニール袋(45L)を2重にして、そこに上記で密閉した廃棄物を捨てます。
- ・外側の手袋が汚染されているので、外して捨てます。(内側の手袋は着けたまま)

③汚染された場所に、再度新聞紙(キッチンペーパー)を広げ、消毒

- 
- ・汚染場所を0.1%次亜塩素酸ナトリウムで浸すように消毒し、10分間放置します。
 - ・10分後、新聞紙を取り除き、ビニール袋(45L)に捨てます。
 - ・水拭きをします。
 - ・エプロン → 手袋 → マスクの順で脱ぎ、上記ビニール袋(45L)に捨て、ビニール袋の口をしばります。

④丁寧な手洗い

10秒洗った後、流水で15秒すすぎを2回くりかえすと効果的です。



参照:厚生労働省「手洗いについて」

⚠️処理の際のポイント⚠️



- ◆必ず換気する
- ◆噴霧をしない
吸い込んだり、皮膚や目に付着すると危険です
- ◆広範囲の消毒を行う

参考: 嘔吐物の処理方法の一例 北海道旭川市ホームページ

90cmの高さからおう吐した場合、3mほどの範囲におう吐物が飛び散っている可能性があります。

環境消毒

・0.02%次亜塩素酸ナトリウムで環境を消毒しましょう。

<消毒するところ>

- ・便座、ドアノブ、手すり、床など
(直接触れたところを中心に消毒しましょう)



オムツ交換

・オムツ交換前に手袋をつけましょう。

・使用後のオムツはビニール袋を2重にし、密閉して捨てましょう。

食事

・症状がある人は、調理など食品に触れる作業は控えましょう。

・感染者が使用した食器は、①か②の方法が有効です。



- ①0.1%消毒液に浸す
- ②85°Cで1分間以上の熱湯消毒

衣類・リネン類

・汚物で汚れた服などは、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いし、85°Cで1分間以上の熱湯消毒をしましょう。

その他

・下痢をしている人の入浴については、一番最後に入るか、シャワー浴のみにしましょう。

・タオルの共有は避け、感染者は専用のタオルを使いましょう。



厚生労働省のHPもご参照ください♪

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

